

第3回
社会実験《体験ドッグエリアのがわ》
2008年10月11日～13日

実施報告書

野川ドッグエリアの会 事務局

1：実施の経緯

2：実施準備

3：実施状況

①3日間にわたる流れ

②入場した犬の数

③入場者の分析としつけ教室

④トラブル、苦情

4：総括と今後の展望

①参加者の声

②スタッフの声

③今後の展望

5：収支報告

別紙：当日配布チラシとアンケート用紙

●お問い合わせ先

fax. 03-3483-3284

1：実施の経緯

野川ドッグエリアの会(2006年3月25日に名称決定し正式発足)は、当初住民有志として2005年11月に署名活動を開始。世田谷区に、「成城4丁目29番地の野川緑地広場《周辺》地域に小規模なドッグラン《ドッグエリア》を整備してほしい」という要望を出した。2006年7月末までに3回に分けて1600名を超える熊本哲之区長宛の署名(要望書)を提出した。

一方、世田谷区は、2006年3月9日付で「世田谷区における人と飼い犬との共生の検討について」とする文書を当時の「都市整備部街づくり推進課/世田谷保健所生活保険課」連名で提示、「2006年4月1日以降は、全庁横断的な検討会を始める」(当時の五十嵐土木課長)という姿勢を示した。その後、区は住民意識調査を開始。2006年7月には、会の役員に対して、「条件付で小規模なドッグランの実施を容認という意見が多かった」(みどりのみず政策担当部、井伊和子部長)という調査の中間報告を署名提出の席で行った。

会と区は、その後定期的な会合を重ね、2007年4月からは毎月1回、野川緑地広場内にある「(財)世田谷トラストまちづくり」ビジターセンター内の会議室を使って、《ドッグエリア》実現のための意見交換を重ねた。区の意向は、現時点では「仮設柵、フェンスなどにより仕切られた場所での、ドッグランの日時限定の試行を行うのが限界。いきなり、常設施設を作るのは難しい」というもの。対する会としては、あくまで常設の施設を要望したが、話し合いが平行線となつては意味がないので、まずは、社会実験として、《体験ドッグエリア》を行い、その実施状況や反響を見て、今後の方針を探るという点で一致した。

その結果、2007年10月6日～8日の3連休に午前、午後各2時間に限って、世田谷区喜多見9丁目29番地先、野川緑道横の広場約220㎡の敷地を使って実施することを決定。仮設柵、ネットなど、ハード面での資材は、砧公園管理事務所が中心になって公園緑地課施設係とともに準備することとなった。これが、第1回の「社会実験《体験ドッグエリアのがわ》」である。このときは、3日間にわたって、のべ203頭(飼い主の人数120名の参加があった)。

その、成功をもとに、第2回は2008年3月15日～16日の土日に実施。第1回は、午前と午後の時間帯ごとに、フェンスの移動を行ったり、その間に監視要員を配置したので、その労力を最小限にするため両日とも13時から17時までの4時間連続での開催にした。その中を、小型犬専用タイムと、フリータイムに、それぞれ分けた。また、第1回にない試みとして、プロのトレーナーによるしつけ教室を実施した。第2回は、犬の数のべ140頭、飼い主の人数100人(複数回利用を除く)の参加があった。

第1回、第2回とも、会場でアンケートをとったが、多くの方が、この社会実験を楽しんでくれて、なおかつ、常設のドッグランを求める方が、利用者の9割を超えた。

その後、行政との話し合いを続ける中で、常設ドッグランへの実績づくりには、まだ、「体験ドッグエリア」の実績を積み重ねることが必要であると判断。今回の2008年10月の3連休に第3回を、同じ場所で実施することになった。

今回3日間での参加数合計は、のべ148頭(飼い主数の絶対数は132名)だった。

2：実施準備

資材は、前2回に使ったものを流用。設置準備についてもほぼ、経験済みとのことで、当日を待つことにした。資材置き場は、小田急線高架下の世田谷区所有地の一角にフェンスで囲んだ約10㎡の敷地を第1回の前に設置してあり、そこに置かれてある資材を使った。

一方、地域住民への事前広報としては、まず、区の職員が喜多見北部町会、喜多見西部町会の役員会で説明をしたほか、成城自治会には文書で通知。隣接する成城地域の大規模マンション内には、区の作成した文書が掲示された。

会としては、独自に作成した看板を現地に3ヶ所、周辺地域に6ヶ所掲示したほか、約1500枚のチラシを役員らが喜多見、成城、狛江地区で配布。ほか、現地の野川対岸にあたる住宅地・成城4丁目の国分寺崖線下地域には、実施の約1週間前にマンションを含めてほぼ700戸に全戸配布した。

3：実施状況

①3日間にわたる流れ

10月11日(土)雨のち晴れ。12:00に小雨の残る中、会の役員、協力者ら10数名が集合し、仮設柵などを設置。開始時刻の13時には晴天になり、すべての準備を終えられた。17:00に実施終了し、17:30には重石を残して撤去終了。

10月12日(日)晴れ。12:30に会の役員、協力者ら約10名が集合し、仮設柵などを設置。開始時刻の13時前にはすべての準備を終えられた。17:00に実施終了し、17:30には重石を残して撤去終了。

10月13日(月)曇り時々晴れ。12:30に会の役員、協力者ら10名弱が集合し、仮設柵などを設置。開始時刻の13時に準備を終えられた。17:00に実施終了。会の役員、協力者ら約10名が集合し重石を含めて、完全撤去。現場にいた参加者にも手伝いか、清掃活動かいずれかに参加するよう呼びかけた。17:40には完全に撤去・清掃を終えられた。地域の清掃活動は、役員2名と参加者約8名が参加し、ごみは持ち帰った。野川沿道に設置したポスターは、その日の18時頃までに10か所すべて撤去した。

②入場した犬の数

● ドッグエリア実施時間	犬の数	うち新規
11日・フリータイム(13-14時) A	18	18
11日・しつけ教室(14-15時) A		
11日・小型犬タイム(15-17時) B	23	23
12日・小型犬タイム(13-15時) C	41	38
12日・フリータイム(15-17時) D	23	20
13日・小型犬タイム(13-14時) E	21	14
13日・しつけ教室(14-15時) E		
13日・フリータイム(15-17時) F	22	19

各時間帯とも、会の腕章をつけたスタッフが当番として4名以上立会った。世田谷区からは、公園緑地課・高木課長と同課施設係・横山係長12日に立ち会った。世田谷保健所からは、職員各1名が常に来場し、「うんちパック」や資料を配布。犬を連れている通行人や参加者へのマナー向上の啓蒙活動を行った。

③入場者の分析としつけ教室

新規受付者には、犬1頭につき「利用票」というカード1枚を発行し、その累計が120枚(120頭)になった。また、2度目以降の来場者には、「利用票」の裏に、利用時間帯のアルファベットを書くことで、入場を許可した。そのリピーターの数は、計数機でカウントしていった。前項の表の左の数字(犬の数)から右の数(うち新規)を引くと、その時間帯のリピーターの数わかる。

初日は午前中雨が降っていたため、出足が悪かった。今回は、前2回比べて、小型犬の参加頭数が目立って増えている。

また、今回2度目になったしつけ教室の時間帯は、11日は、14時の時点で参加者が少なかったため、ドッグランの状態を維持したまま参加者による個別質問に答える形にした。鈴木トレーナーは、1時間余りの間、つぎつぎと希望する参加者の質問に5分ずつ程度個別指導していた。おもな相談点は以下の通り。「無駄吠え」「散歩のとき、引きが強い」「他の犬を見ると吠える」「まっすぐに歩かない」など。13日のしつけ教室は、参加した犬の数23頭(うち大型犬3頭)。講習会方式で、鈴木トレーナーの話を15分ぐらい聞いた後、会場内にコーンを立てて、それに沿って、「歩く」「止まる」「歩く」「止まる」……のトレーニングを1頭ずつ行った。うまくできる人もいれば、なかなかできない人も。ちなみに、鈴木トレーナーの話は、「柵に囲まれているからドッグランは安全と思っはいけない。あくまで、飼い主が犬をコントロールできることが大切で、それができていない場合は、ドッグランを利用する際に、犬から目を離してはいけない」という趣旨に始まり、犬同士のトラブルの際の対処法など、ドッグランで飼い主が心得るべき注意点が多く盛り込まれていた。

④トラブル、苦情

トラブルは、まったくなく、事務局への苦情もなかった。ただ、10月11日(土)の初日に現地にスタッフがついたとき、その周辺にあった事前告知の看板(A3縦カラーのポスターをラミネート加工)が3ヶ所はずされて、捨てられていた。スタッフの目撃情報から、前日10月10日(金)の夜間に、いたずらしたと思われる。相変わらず《体験ドッグエリア》を快く思わない人物がいることは間違いない。

4：総括と今後の展望

①参加者の声

ほとんどの参加者が、会場を後にするときに「ありがとうございました」「お世話になりました」「楽しかった」といった言葉を、スタッフにかけて帰っていった。

参加者の希望で、牧羊犬のボーダーコリーを飼っている人からは、「うちの犬が走り回ると小型犬にぶつかってしまうので、フリータイムだけではなく、中型・大型犬専用タイムも作ってほしい」という声が出た。将来的に常設の施設が作れるならば、エリアを分けることが、もっとも望ましい。

今回は、入場時にチラシとアンケート用紙(別紙)をわたし、帰りがけに任意で提出してもらったため、アンケートの回収数は33枚にとどまったが、内容の濃い意見が多かった(集計結果は別途後送)。

②スタッフの声

ボランティアを含めて、20名近くのスタッフの多くは、自分の飼い犬を連れてくるのも我慢して、当番の時間帯を担当した。それでも、ほかの犬が楽しそうに駆け回ったり、じゃれあったりしているのを見て、スタッフ同士「見ていると幸せな気持ちになる」「こうして、新しい飼い主さんと知り合いになると、地域の絆が広がる。いまは犬が多すぎて、散歩してすれ違っても挨拶すら交わさないから・・・」「犬がのびのびして、みなストレス解消になったようだ」と、全体的に肯定的な感想があがった。

一方で、ふだん見知らない犬が、同じエリアの中に入りノーリードで接しあうことで、じゃれるのではなく、ケンカするように激しく吠えることが、わずかではあったが、生じた。そうしたときは、スタッフが指導しなくても、一方の飼い主さんが犬を抱えて、場外に出てくれた。

③今後の展望

ひとつ残る大きな課題としては、仮設柵、ネットの設置・撤去が重労働で、女性や高齢者が多い会のスタッフ・協力者だけでは、かなり負担が大きかったことがあげられる。

参加者は、延べ148頭で、近隣からも、まったく苦情がなかったことから、地域に求められる施設であることは確か。

アンケートでも、常設の施設を望む声がいへん強く(別途)、最終的には常設のドッグエリアを別の用地に設置することが望ましい。

5：収支報告

収入	補助金の一部	55,000円	*1
	カンパなど会の内部留保	18,736円	
		<hr/>	
		73,736円	

*1 世田谷区の「地域の絆再生支援事業」補助金から

支出	チラシ用紙、コピー代	17,404円	
	張り紙、看板、消耗品	9,132円	
	しつけ教室講師料	40,000円 (20,000円×2日)	
	ボランティア保険	7,200円	
		<hr/>	
		73,736円	